

## 4 T-CiRA : 真のイノベーションを目指す 新たな産学協働の試み

いずも せいごう  
出雲 正剛

武田薬品工業株式会社 再生医療ユニット グローバルヘッド/  
日本サイエンティフィック アフェアーズヘッド

産学協働とは広く産業界と大学が互いに協力し、研究やその成果としての事業化を促進することを指し、その始まりは1899年ハーバード大学総長C.エリオットの政策が始まりとされている。

これまでに我々は製薬企業として国内外の多くの大学と共同研究を行ってきたが、2015年12月には産学協働の新たな試みとして、京都大学iPS細胞研究所（CiRA）とiPS細胞技術の臨床応用を目指す「タケダ－CiRA共同プログラム（以下、T-CiRA）」を開始するに至った。

10年間で200億円の研究資金および120億円相当の研究支援が提供されるT-CiRAは、企業が大学に研究資金の提供のみ、あるいは少数の企業研究者がアカデミアに出向くといった従来型の共同研究とは異なり、アカデミア研究者がタケダの創薬研究の中心である湘南研究所（神奈川県藤沢市）に出向き、タケダ研究者と共に研究を行う「逆滞在型」共同研究であることが特徴である。この枠組みにおいて、アカデミアは企業が有する有形・無形資産をオンサイトで最大限に活用することが出来るというメリットがあり、企業は多数の自社研究者を企業の仕事を続けながらパートタイムでも研究に参画させるといったように、様々な形でサービスを提供できるというメリットがある。またT-CiRAの意思決定組織体としてJoint Steering Committeeなどは設置せず、iPS細胞

の発見者でもあるCiRA所長の山中伸弥教授が最終意思決定をすることもユニークな点として挙げられる。

共同研究開始から1年が経とうとしている2016年10月末時点において、アカデミア研究者34名、タケダ研究者65名以上が従事する一大プロジェクトとして進行中であり、早くも一定の成果が得られつつあることは、この試みが大きな可能性を秘めていることを示唆するものと考えている。

また我々は米国 New York に所在する Memorial Sloan-Kettering Cancer Center、Rockefeller University、Weill Cornell Medical College が共同設立した Tri-Institutional Therapeutics Discovery Institute（以下、Tri-I TDI）と2013年より提携を行っている。タケダはTri-I TDIに製薬企業パートナーとして参画し、低分子化合物合成やスクリーニング、抗体作製技術の提供を通して、アカデミア発の基礎研究を臨床研究に橋渡しする役目を果たしている。

イノベーションを目指す新たな枠組みとして、今後新たな形の取り組みが広がっていくことを期待したい。